

## 第 33 期（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日） 事業報告書

公益法人へ移行後 8 期目となった第 33 期、平成 31 年度（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）は、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、-国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 16 号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行した。

財団の財政収支面では、双日(株)から公益目的事業費及び管理費向に前年度同様 1,500 万円の寄附を頂いた。

基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、双日(株)株式の下期配当金 238 万円を含め 4,000 万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、時価評価増減を主として 6,157 万円減少となり、今期末の基本財産額は前期末比 5,971 万円減少の合計 21 億 8,504 万円となった。

### 【I】 今期の事業の概要

#### a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成 31 年度事業計画に定められていた 44 案件のうち新型コロナウイルス感染問題の影響を中心に 6 案件が中止となり、最終 38 案件 計 3,557 万円の助成を実施した。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

#### イ) 学術研究助成

- ・USJI(日米研究インスティテュート)若手研究者育成事業への助成 (80 万円)

2009 年ワシントン DC に設立された非営利団体。将来の日米関係の発展に寄与できる次世代若手研究者の育成を目的に、日本 7 大学の研究者を支援。選出された若手研究者 5 名にスカラールを与え支援。10 年間にわたる本事業は今年度を最後に活動終了となった。

#### ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (2,043 万円)

平成 31 年度は昨年同様 20 大学の奨学生、以下の 20 名に対し奨学金を支給した。

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| ① チェ ホビヨン     | (北海道大学大学院 工学院)        |
| ② ヨウ シンイ      | (東北大学大学院 環境科学研究科)     |
| ③ クブラ カディザトゥル | (筑波大学大学院 生命環境科学研究科)   |
| ④ マディナ ヤクフジャン | (千葉大学大学院 医学薬学府)       |
| ⑤ イスクレスク ミコラ  | (東京大学大学院 理学系研究科)      |
| ⑥ ハサニ ファテメ    | (東京工業大学大学院 環境・社会理工学院) |

- |   |                      |                           |
|---|----------------------|---------------------------|
| ⑦ | パリザ アイルボ             | (一橋大学大学院 経済学研究科)          |
| ⑧ | エリナ ザイフェルト           | (早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科)      |
| ⑨ | パク ジュヒ               | (慶応大学大学院 法学研究科)           |
| ⑩ | ルー ティエン              | (上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科) |
| ⑪ | グエン クオック コア          | (横浜国立大学 教育人間科学部)          |
| ⑫ | カブレラ クリストファー<br>マイケル | (名古屋大学大学院 人文学研究科)         |
| ⑬ | デン エイイン              | (京都大学大学院 農学研究科)           |
| ⑭ | ヴォ ウィ チャウ            | (大阪大学大学院 経済学研究科)          |
| ⑮ | ソン ホンウ               | (神戸大学 経済学部)               |
| ⑯ | ハウ セイリョウ             | (岡山大学大学院 社会文化科学研究科)       |
| ⑰ | カオ ティ トゥイ リン         | (広島大学大学院 生物圏科学研究科)        |
| ⑱ | キム イエジ               | (九州大学 医学部保健学科)            |
| ⑲ | ジョス マヌ               | (立命館アジア大洋州大学大学院 経営管理研究科)  |
| ⑳ | リュウ コウデン             | (熊本大学 理学部)                |

## 2. 国際大学奨学金制度への助成 (120万円)

国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中の Sojitz Foundation Scholarship に対して助成を行った。

### ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

#### 1. 「第71回 日米学生会議」への助成 (40万円)

「世界の平和は太平洋の平和にあり、太平洋の平和は日米間の平和にある。その一翼を学生も担うべきである。」という創立当時の理念に基づき、学生の相互理解と友情、信頼関係を醸成し続け毎夏日米交互で3週間に亘る会議は、学生の手で企画・運営されている。

開催時期：2019年8月5日～28日

開催地：日本（高知・京都・岐阜・東京）

参加人員：日本32名、米国32名 計64名

#### 2. 「第38回 日中学生会議」への助成 (40万円)

「緒～対話から紡ぐ、有効の“糸”～」の理念を掲げ、歴史、マイノリティ、教育と文化、環境と開発、メディア、社会現象、スポーツと文化の各分科会に分かれ、本会議での議論を通じ日中間の現在の関係に相互理解を深めた。

開催時期：2019年8月5日～22日

開催地：日本（広島・奈良・東京）

参加人員：日本30名、中国28名 計58名

3. 「2019年度 日中青年会議」への助成 ( 35万円 )  
日中間の平和大使の育成を目的としUWC 香港校で行われる当会議は今年度台湾を加えた4地域(日本・中国・香港・台湾)からの中高生が集い行われた。  
「紛争は人々の心や精神の中で始まり終わるのである、丘の上で行われるのではない。」というイスラエルの作家アモス・オズ氏の格言をスローガンに日中間の共通点や相違点を議論して、相互理解・尊重を深めることができた。  
開催時期： 2019年7月19日～25日  
開催地： 中国(香港)  
参加人員： 日本20名、中国15名、香港11名、台湾5名 計51名  
(別途主催者組織委員28名)
4. 「第35回 日韓学生フォーラム」への助成 ( 40万円 )  
「Unite our sight」をスローガンに日本で開催。2月・6月の日本メンバーによる事前合宿を経て、8月の日本でのシンポジウムでは、AIと人間の共存、民主主義とメディア、学生の権利、日韓の化粧品市場の変化、世代間格差のテーマで開催し、同時に政治/経済/歴史/社会/文化の分科会にてそれぞれテーマを設定してディスカッションを行った。  
開催時期： 2019年8月6日～20日  
開催地： 日本(東京・金沢・大阪)  
参加人員： 日本13名、韓国14名 計27名
5. 「第23期 日本インド学生会議」への助成 ( 40万円 )  
「教育」を本年度テーマとし、学校と家庭で行われる道徳教育につき議論。在日インド大使館訪問、大江戸温泉、書道、三味線、歌舞伎などを通じ異文化体験ができた。  
開催時期： 2019年8月13日～22日  
開催地： 日本(東京)  
参加人員： 日本9名、インド8名 計17名
6. 「第17回 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」への助成 ( 40万円 )  
イスラエル・パレスチナ間の対話の機会創出と信頼醸成、対話の先の平和構築に向けた行動を促す、ことを事業目的に毎年夏に両地域から学生を承知し開催。「ヒロシマ」でパレスチナ問題に関するディスカッションを行い、広島平和記念公園・資料館を訪問並びに一般市民を対象としたシンポジウムも開催。議論を通してお互いの理解を深めた。  
開催時期： 2019年8月6日～21日  
開催地： 日本(広島、東京)  
参加人員： 日本15名、イスラエル7名、パレスチナ3名 計25名
7. 「第31回 日本ロシア学生会議」への助成 ( 40万円 )  
日露学生との文化的、学術的交流を通じ、双方の異文化理解、相互理解を促進し、二国間の発展に貢献することを目的とした会議であり、今年度も8月の本会議に向け、4月から7月にかけて事前勉強会を実施。本会議では国際関係・環境・メディアの各分科会で幅広いテーマで

討議をして理解を深めた。

開催時期： 2019年8月7日～22日

開催地： ロシア（モスクワ）

参加人員： 日本12名、ロシア15名 計27名

8. 「日仏学生フォーラム事業2019来日プログラム」への助成 (30万円)

「共生」をテーマに、宗教・出生祖先・男女平等・言語・異文化マネジメントの5つの分科会に分かれ、テーマに即して参議院・経産省など官公庁、ソニー・グーグルなどへの企業訪問を通じて具体的な議論をした。文化訪問では、仏メジュール市と文化交流を行っている飯田市で茶道・人形劇等、東京都内では歌舞伎などで日本文化を考える機会を持った。

開催時期： 2019年8月8日～25日

開催地： 日本（東京・長野）

参加人員： 日本15名、フランス11名 計26名

9. 「第4回 日英学生会議」への助成 (40万円)

本年度のテーマは「Legacy of War: Our Memories of Hiroshima」とし「現代の戦争」「国の核使用と保有」について被爆体験者、核兵器、国際人権法などの専門家とも意見を交わし積極的な議論が行われた。広島平和記念公園・資料館でのフィールドワークも行い、核兵器の使用や平和について平和活動家の講義のあと会議で取り纏めた「核兵器問題に対して取り組む政策」の評価とフィードバックが行われた。

開催時期： 2019年8月19日～26日

開催地： 日本（広島）

参加人員： 日本9名、英国12名 計21名

10. 「日本ケニア学生会議 第20期 本会議」への助成 (40万円)

両国間の諸問題解決に寄与すべく相互理解と、友好促進を目標として意見を発信し、その成果を社会に還元することを主眼とした学生会議。20周年を迎える今回は「教育現場と労働需要の接続」を主題とし関連する機関の訪問、討論、提言が行われた。

開催時期： 2020年2月4日～18日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本4名、ルワンダ4名 計8名

11. 「Youth 7 Summit 2019」への助成 (30万円)

毎年G7・G20サミット開催に合わせて開かれるこのYouth Summitは、今年度はパリ・東京で開催となった。今回は「気候変動」「ジェンダー平等の達成」、「テクノロジー」などに付き分科会にて討議を行い、G7・G20のリーダーへの提言を行った。

開催時期： 2019年6月9日～14日（Y7パリ・フランス）

2019年5月27日～30日（Y20東京・日本）

開催地： フランス（パリ Y7）・日本（東京 Y20）

参加人員： 日本6名（Y7-4名/Y20-2名）、G7諸国31名・G20諸国44名 合計81名

12. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2019」への助成 ( 30 万円 )  
「今北東アジアが世界に何ができるか」というテーマで 4 ヶ国の学生が、文化保全・環境・安全保障、LGBTQ の分科会で議論をしてお互いに理解を深めた。茶道、日本舞踏、秋田竿燈まつり、食文化などの文化交流も行われた。  
開催時期： 2019 年 8 月 1 日～9 日  
開催地： 日本 (秋田)  
参加人員： 日本 18 名、モンゴル 8 名、韓国 15 名、台湾 19 名、合計 60 名
13. 「STeLA Leadership Forum 2019」への助成 ( 35 万円 )  
次世代の国際的リーダーを目指す日本・欧州・中国・中東の工学、生物学、医学、経済学など幅広い分野から参加者を集め、「Energy transition and urge for our sustainable future」をテーマに、問題解決のプロセスの中で如何にリーダーシップを発揮していくかを体験した。  
開催時期： 2019 年 7 月 31 日～8 月 10 日  
開催地： アラブ首長国連邦 (ドバイ)  
参加人員： 日本 10 名、中国 11 名、欧州 8 名・中東 10 名、 計 39 名
14. 「第 65 回 国際学生会議」への助成 ( 40 万円 )  
「多様性の深化を享受する～今を生き、明日を創る力として～」を総合テーマに、難民問題から海洋プラスチック汚染など 6 つの分科会での学術交流、ソーラン節、書道などの日本文化体験などを通して文化交流した。  
開催時期： 2019 年 8 月 21 日～9 月 2 日  
開催地： 日本 (名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・九州・東京)  
参加人員： 17 カ国から 57 名が参加 (うち日本 32 名)
15. 「日本ポーランド学生会議 2019」への助成 ( 20 万円 )  
「日本ポーランド国交 100 周年の今とこれから」をテーマに、政治・ビジネス・文化面での両国関係の歴史や意義について、大学、大使館、国会議事堂、特別支援学校、両国企業などを訪れ学生同士で再考・議論しながら有意義な交流を実践した。  
開催時期： 2019 年 9 月 8 日～9 月 15 日  
開催地： ポーランド (ワルシャワ・トルン・ヴェイヘロヴォ)  
参加者： 日本 9 名、ポーランド 7 名 計 16 名

(国際交流)

16. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成 ( 36 万円 )  
米国の NPO 法人 CEPEX が行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。今年度の優勝者はジョージワシントン大学のエイミー・カスターさんで、ワシントン DC の日本企業での 10 週間のインターンシップの経験、及び 10 日間の日本訪問の機会が与えられた。  
開催時期： 2019 年 6 月 18 日～6 月 28 日

開催地 : 米国 (ワシントン)、日本 (東京)

17. 「日アジア介護・リハビリテーション学び合いプロジェクト2年目」への助成 (78万円)  
タイ・マレーシア・インドネシア人看護師・ボランティア・NGO職員6名を招聘し、日本の介護や福祉の現場を見学してもらい、日本人との交流や意見交換会を行った。

在大阪タイ領事館も訪問し現状及び今後の方針につきプレゼンを行った。

開催時期: 2019年10月31日～11月2日

開催地: 日本 (大阪)

参加者: 日本7名、タイ2名、マレーシア2名、インドネシア2名 計13名

18. 「“MrJ”プロジェクト第16回日本語夏期講習サマースクール」への助成 (40万円)  
ウランバートルにある「新モンゴル小中高一貫学校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。スピーチコンテスト・詩の朗読大会も実施した。

開催時期: 2019年7月29日～8月23日

参加人員: 日本10名、モンゴルの生徒: 315名

19. 「ジュニア・フェロー・リーダーシップ・プログラム」への助成 (30万円)  
選抜されたアメリカの高校生が日本でのホームステイ、学校体験、研修旅行、地域の活動への参加を含む短期リーダーシップ研修を実施。東日本大震災で被害にあった地域を訪れ学び、東京では企業訪問、また福島ではホームステイを体験した。

開催時期: 2019年7月8日～28日

開催地: 米国 (ニューヨーク)、日本 (福島・東京)

参加人員: 米国人ジュニアフェロー10名、日米ジュニアフェロー同窓生27名

20. 「MPJユース2019年度アフリカ研修事業」への助成 (30万円)  
日本大使館、味の素ファンデーション、住友商事等を訪問し、学生会議では「ジェンダー」「経済」「教員」をテーマとして、3分科会でガーナ大学の政治学を専攻する学生とのディスカッションを行った。又、自国文化紹介を通じて文化交流も行い、お互いの理解を深めた。

開催時期: 2020年2月14日～3月1日

開催地: ガーナ (西アフリカ)

参加者: 日本13名、ガーナ大学学生たち

21. 「Hallo Deutschland 2019—第13回日独ユースサミッター」への助成 (30万円)  
日独青年交流を目的に、政治、文化、社会、教育、環境のグループに分かれ、テーマに関係する専門家、施設を訪問しディスカッションを行い、最終プレゼンテーションとしてグループごとに提言をまとめ発表した。同時に、合宿形式の交流の中で、お互いに理解を深めた。

開催時期: 2019年8月22日～9月1日

開催地： ドイツ（フランクフルト・ワイマール・ベルリン）

参加者： 日本 20 名、ドイツ 29 名 計 49 名

22. 「International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2020」への助成 (40 万円)

「持続可能性の促進」をテーマとして、「起業」「環境」「伝統とグローバリゼーション」の 3 つのコンテンツからフィールドワークを行い、東京 4 日間、ヤンゴン 4 日間・マンダレー 4 日間の両国で開催した。両国 3 都市で文化的・歴史的な側面も加わり異文化交流を深めた。

開催時期： 2020 年 2 月 18 日～29 日

開催地： 日本（京都）・ミャンマー（ヤンゴン・マンダレー）

参加者： 日本 13 名、ミャンマー 15 名 計 28 名

23. 「Experience Japan 2019」への助成 (30 万円)

「グローバルな課題を、多国間のパートナーとの協働を通じて解決することのできる、次世代リーダーの育成・輩出」を団体理念とし、2019 年度は今後重要な産業分野となる「観光」をテーマとし、日本並びに参加各国の観光業の現状・問題点を分析し解決策を考察した。

開催時期： 2019 年 8 月 25 日～9 月 2 日

開催地： 日本（東京、鎌倉）

参加人員： 日本 9 名、カンボジア・インドネシア・フィリピン・ミャンマー・マレーシア・ベトナムの 6 か国より 8 名 計 17 名

24. 「ドイツ、カニジウス校との音楽を通じた交流」への助成 (30 万円)

ドイツ、カニジウス校オーケストラが日本各地で演奏会を開催。日本とドイツの国際交流の一環として、各地の学校も訪問し、演奏を通じて日本の生徒たちと親交を深めた。

大垣、奈良、神戸ではホームステイでの受入れ、文化体験もあり日独の交流が図れた。

開催時期： 2019 年 9 月 26 日～10 月 13 日

開催地： 日本（東京・静岡・大垣・奈良・神戸）

参加者： カニジウス校オーケストラ 31 名、演奏会来場者 1500 名以上

25. 奨学生交流会（兼奨学生 OB 会） (172 万円)

財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日㈱の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3 日目は小田原・湯河原方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。

開催時期： 2019 年 9 月 19 日～21 日

参加者： 奨学生・奨学生 OB 24 名、役員他関係者 36 名 計 60 名

（日本文化紹介等）

26. 「マジック公演（クック島及びマンガイア離島）」への助成 (10 万円)

100 カ国以上を訪ねてマジック公演を行ってきた 渡邊氏が、クック島・マンガイア離島の幼

稚園、小学校、教会を訪問、大勢の子供たちの前でマジックを演じて国際交流を行った。

開催時期： 2019年5月24日～29日

開催地： クック諸島

参加者： 日本側 渡邊氏のみ (総予算 37万円)

現地来場者 生徒・教職員・一般客・大使館関係者等 1,600人以上

27. 「江戸糸あやつり人形 ボリビア・ペルー公演 2019」への助成 (30万円)

ボリビア日本人移住 120周年記念公演、ペルーなど5ヵ所で大使館の協力を仰ぎ乍ら、あやつり人形公演を行い日系人以外にも多くの来場者があり日本文化の紹介ができた。日本語学校生徒を中心にワークショップも行った。

開催時期： 2019年4月23日～5月6日

開催地： ボリビア(ラパス・サンタクルス)、ペルー(リマ)

参加者： 日本(公演メンバー)6名、来場者 総勢約1,000人

28. 「第44回 ジャパンウィーク 2019年ギリシャ・アテネ」への助成 (30万円)

伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、スポーツ等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本への理解を深め、市民交流を図り、日本・ギリシャの友好親善に寄与する。舞台公演、展示・実演・ワークショップ、学校や老人クラブの訪問交流、音楽・舞踊・料理の交流もした。

開催時期： 2019年11月23日～28日

開催地： ギリシャ(アテネ)

参加者： 日本側86団体1,311名、ギリシャ側1団体、来場者24,000人

29. 「秋の日本芸術祭ぶんかさい 2019」への助成 (30万円)

ワルシャワの子ども達に日本の文化、伝統、芸術、言語を体験する機会を提供する目的で開催された「ぶんかさい」は国交100周年と相まって多くの来場者を迎え、展覧会、日本舞踊、和楽器演奏、講演会、ワークショップ、物販、料理などで日本文化と芸術を発信できた。

開催時期： 2019年10月12日～11月15日

開催地： ポーランド(ワルシャワ)

参加者： 日本側 イベント開催者多数、ワルシャワの子供、市民多数

30. 「第七回日本祭り」への助成 (10万円)

日本ポーランド国交回復100周年を祝い和太鼓奏者壺太郎氏が日本語学校の先生、ポーランド人達と日本祭りイベントで和太鼓のコンサートを行い、日本祭りを盛り上げた。同時にワルシャワ日本人学校、孤児院を訪れ和太鼓コンサートとワークショップも行われた。

開催時期： 2019年6月15日～16日

開催地： ポーランド(ワルシャワ)

参加者： 日本側 壺太郎(中島章雄)氏のみ ポーランド側来場者 1万人以上

31. 「音楽狂言《寿来爺》ヨーロッパツアー2019」への助成 (30万円)

19世紀イギリス文学をスイス現代音楽家による演奏で日本の狂言を行うというコラボレーシ



ョンで日本・オーストリア交流 150 周年記念事業として公演。スイス・イギリスでは、公演及び日本人学校でのワークショップも行われた。言葉の壁を越え日本伝統の狂言を観衆に紹介し各地で多大なる評価を得た。

開催時期： 2019 年 11 月 18 日～29 日

開催地： オーストリア・スイス・英国（ウィーン・チューリッヒ・ジュネーブ・シュヴァイツ・ケルン・オクスフォード）

参加者： 日本側 11 名、各地来場者 多数

32. 「欧州特別能楽公演」への助成 (40 万円)

プロブディフ市が 2019 年の欧州文化首都に選ばれたブルガリアは、日本と交流開始 110 周年、外交関係樹立 80 周年、外交関係再開 60 周年の特別な年にあたる。またマケドニアとは外交関係樹立 25 周年である。両国で「羽衣」「土蜘蛛」及び新作能「オルフェウス」を上演し、日本との国際親善を推進し、ワークショップも実施した。

開催時期： 2019 年 9 月 20 日～10 月 8 日

開催地： ブルガリア(ソフィア、スタラザコラ、プロブディフ)・マケドニア共和国(スコピエ)・アルバニア共和国(ティアラ)

参加者： 日本側 25 名、各都市国立劇場 8 公演観客多数

(日本語普及事業等)

33. 「第 24 回海外高校生による日本語スピーチコンテスト並びに日本青少年と海外青少年による異文化理解及び交流プログラム」への助成 (30 万円)

各国の予選を通過した代表を日本に招聘し、スピーチコンテストが行われた。異文化交流プログラムも行われ、お互いの文化を理解し、愛媛松山でのホームステイなどを通じ、国境を超えた友情を深めた。

開催時期： 2019 年 7 月 21 日～8 月 2 日

開催地： 日本（愛媛・東京）

参加者： 16 カ国(中国、韓国、アメリカ、イギリス、ロシア等) 大会出場者 計 16 名  
大会観客 2000 名、異文化交流プログラム 160 名

34. 「言語文化教育研究・国際研究集会及び第 4 回ハノイ日本語教育講演会・交流会」への助成 (18 万円)

ベトナムの日本語教師を対象に、ベトナム国内外の日本語教育専門家を招き講演会を実施。成果を日本語学習者に還元するためプレゼンテーション大会も行い、ベトナムの日本語教育全体の発展につなげる。

開催時期： 2019 年 12 月 7 日～8 日

開催地： ベトナム（タンロン大学）

参加人員： 講演会参加者 210 名

35. 「Japanese Learning Inspired Vision and Engagement Talk 2019」への助成 (30 万円)

今回は 1 次審査で全米の 11 州とワシントン DC から 55 名が参加し、日本語総合コミュニケーション力を競い、審査を経た 9 人のファイナルナリストがジョージワシントン大学でライ

ブプレゼンテーションを行った。入賞者には日本への短期留学費用、奨学金などが贈られた。  
コンテスト後、日本語書籍販売、狂言上演とワークショップが行われた。

開催時期： 2019年11月10日

開催地： 米国（ワシントン）

参加人員： 全米応募者 55名 審査員 5名、

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。 合計189万円

1. 財団ホームページの更新・運営 (45万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第16号」の発行 (143万円)

令和元年9月「財団だより - 第16号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、平成30年度の事業報告及び財団の活動のPRを行った。

[Ⅱ] 管理・庶務事項

- 平成 31 年 4 月 1 日 平成 31 年度奨学生募集を開始
- 令和元年 5 月 9・13・16 日 会計監査人による決算期末監査及び監査報告会
- 5 月 23 日 第 96 回選考委員会を紙上開催
- ・平成 31 年度奨学生 7 名を補充選考
- 6 月 5 日 第 96 回理事会を開催
- ・平成 30 年度事業報告書及び決算報告書を承認
  - ・6 月 26 日の定時評議員会開催を決議
  - ・平成 31 年度奨学生 7 名を承認
  - ・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 6 月 24 日 奨学生認定書授与式
- 6 月 26 日 第 71 回定時評議員会を開催
- ・平成 30 年度の事業報告並びに決算報告を了承
  - ・評議員・理事・監事の任期満了に伴う改選
- 6 月 26 日 第 97 回理事会を開催
- ・理事長及び専務理事の選出
- 6 月 28 日 平成 30 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 9 月 18 日 機関誌「財団だより 第 16 号」を発行
- 9 月 19 日～21 日 「財団奨学生交流会」を開催
- 11 月 1 日 2020 年度国際交流助成募集開始
- 11 月 27 日 臨時評議員会開催 ・退任役員等に対する内部規定改定
- 12 月 21 日 2020 年度国際交流助成募集〆切
- 令和 2 年 1 月 23 日 臨時評議員会紙上開催 ・新任評議員の選任
- 2 月 20 日 第 98 回選考委員会を開催
- ・2020 年度助成案件を選考
- 3 月 25 日 第 98 回理事会を紙上開催
- ・2020 年度助成案件(案)及び 2020 年度事業計画(案)を承認
  - ・2020 年度収支予算(案)を承認
  - ・選考委員選任
- 3 月 28 日 2020 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上